

2012 春季生活闘争勝利・3. 2 岩手県中央総決起大会 組合員の雇用を全自交に集う仲間が勝ち取ってくれた

2012 年 3 月 2 日 盛岡市教育会館で連合岩手が 2012 春季生活闘争勝利・東日本大震災復興、3.2 岩手県中央決起集会

連合岩手(砂金文昭会長)では、3月2日に盛岡市教育会館において全自交組合員も含め500名以上の組合員が参加して2012春季生活闘争勝利・東日本大震災復興、3.2岩手県中央総決起集会を開きました。

被災した沿岸各地区の代表者が3.11以降の取り組みや現況を話、更なる支援を参加者に要請した。その中で釜石地区から参加した三浦釜石地区協議会事務局長は全自交が全国の仲間とともに取り組んだ釜石タクシー再建の活動を参加者に報告した。



三浦事務局長は、3.11の大震災津波で、釜石市内では多くの企業や家屋が津波による被害を受けました。中でも全自交に所属する釜石タクシーは、事務所、業務車両14台中、11台を流失してしまい経営者は、被災後1週間ほどで会社継続を断念する旨を後藤委員長に伝えてきました。後藤委員長は、岩手地方本部の森委員長の協力のもと経営者に対し会社再建に当たっての話し合いの申し入れを行い、森委員長から経営側に対し、「全自交が再建費

用やタクシー車両の手配等を行うので事業の再開をお願いしたい」との熱意を伝えたところ、社長は事業の継続を承諾してくれました。

全自交の支援の輪は、全国に渡り、遠くは神戸、神奈川、東京より7台の中型車両と1台のジャンボ車両の支援を頂くとともに、県内からは営業に必要な付属部品の各種支援を頂きました。釜石支部後藤委員長は、「組合員から組合があってよかった」と感謝されている。岩手の仲間を始め全国の仲間から心から感謝したいと話しています。大震災では、多くの中小企業で働く方々が津波によって職を失っているのが現状です。そうした中で、今回の全自交の取り組みは、労働組合にとって一番大切な「組合員の雇用を守る」と言う事を全自交に集う仲間の手によって勝ち取ったことは素晴らしい事であると報告した。

参加した組合員は3.11の大震災の被害状況を思い出し、感動ある報告にこみ上げるものをこらえながら、三浦事務局長に拍手を送りました